プロジェクト評価報告書

矢吹研A班

1542069 竹内 裕治

1542002赤岡 武

1542117 吉田 和暉

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 承認印 | | |
| PM | シニア | ユーザ |
|  |  |  |

内容

[1.選択したチーム課題 3](#_Toc488328720)

[1.1反省点・改善点 3](#_Toc488328721)

[1.2良かった点 3](#_Toc488328722)

[2.品質 4](#_Toc488328723)

[2.1点検用チェックシート 4](#_Toc488328724)

[3.コストEVM 5](#_Toc488328725)

[3.1コストを時間としてバーンアップチャートでEVMを表した。 5](#_Toc488328726)

[4納期 7](#_Toc488328727)

[4.1スプリント 7](#_Toc488328728)

# 1.選択したチーム課題

アジャイル開発のスクラムを使用しました。

## 1.1反省点・改善点

アジャイルのスクラムについての知識が深まっていないこと。

アジャイル開発についての知識が深まっておらず、システムに掛ける時間を多く取らなければいけないが、文書の作成やアジャイルの知識を深めるために時間を取ってしまった。

そこで後半では文章の作成に時間をかけず、システム設計に専念した。

意思疎通が出来ていなかった。

スクラムでは意思疎通が前提条件であるが、前半のシニアミーティングでは、

意思疎通ができていないことで、質問に対しての返答がバラバラであり意思疎通ができていないことが明らかになった。

そこで、毎回の作業をした日にスクラム会議を行い、前回までに達成した事・次回までに

達成する事を話し合い、進捗状況を逐一メンバ間で共有できるようにした。

レビュー回数の少なさ。

本来では、毎スプリント終了ごとにユーザ・レビューを行うが、実際ではスプリントごとに終わるはずの成果物が完成しなかったため、レビューを行うことが出来なかった。なぜ完成しなかったか、それは技術力不足、文章関連のポイント見積もり不足、アジャイル開発の前例がなかった、そしてベロシティを多く見積もったため開発スケジュールが間に合わなくなった。

次のプロジェクトでは、前例があるのでベロシティをスケジュールと照らし合わせな

がら、すべてのスケジュールの多忙を防ぎ、見積もり不足をなくすことに気をつける。

　メンバ間での進捗状況の報告が出来ておらず、システム変更点などの報告がなく、資料作成においての食い違いが生じ、意思の統一に時間を割く手間が増えたこと。

## 1.2良かった点

前半からシステムに早く触ることが出来た、その結果後半ではシステムの開発に専念できた。

ユーザからの新たな要求である追加フォーム機能を早急に導入することが出来、ユーザからの欲求を満たせた。

# 2.品質

## 2.1点検用チェックシート

「点検用チェックシート」は、確認しておきたい事項を書きならべた表です。  
仕事の確認などに使用することができ、事故や間違いを防止することができます。

表 1　点検用チェックシート

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 区分 | 機能内容 | チェック |
| トップページ | 過去問の表示画面にとべるか | ✓ |
| 過去の成果物にとべるか | ✓ |
| 時間割表示画面にとべるか | ✓ |
| Twitter APIが実装されているか | ✓ |
| 過去問・シラバス画面 | DBから過去問の画像を表示出来ているか | ✓ |
| DBに保存したシラバス情報を表示出来ているか | ✓ |
| 新しく追加された過去問画像を一番上に表示出来るか | ✓ |
| 過去の成果物の  画像表示画面 | あかさたなで選択し画像表示画面にとべるか | ✓ |
| DBから成果物の画像を表示出来るか | ✓ |
| 時間割表示画面 | DBから時間割画像を表示することが出来るか | ✓ |
| 時間割の保存をすることが出来るか | ✓ |
| Twitter　API | Twitterのツイートが表示され更新されるか | ✓ |
| リンク | 全画面にトップページにとべるリンクがあるか | ✓ |

プロダクトオーナー　近藤智之様

|  |  |
| --- | --- |
| 項目名 | 1~10段階評価 |
| 成果物の情報量 | ６ |
| 過去問の情報量 | ６ |
| 使いたいと思うか | ６ |
| レイアウトは適切か | ７ |
| 直感的な操作が出来るか | ７ |
| Twitterの発信情報は見つけられたか | ９ |
| 探したい情報を見つけられたか | ６ |
| ボタンの配置は適切か | ６ |

# 3.コストEVM

## 3.1コストを時間としてバーンアップチャートでEVMを表した。

図 1　バーンアップチャート

**表2 EVM**

|  |  |
| --- | --- |
| EVM | 計算結果 |
| 実コスト | 266H |
| プランド・バリュー | 208H |
| アーンド・バリュー | 208H |
| コスト差異 | -58H |
| スケジュール差異 | 0 |
| コスト効率指数 | 0.8 |
| スケジュール効率指数 | 1 |

スケジュール差異は0なので良好であり、スケジュール効率指数も1なので予定通りになります。しかし、コスト効率指数が1を下回っているので、コスト超過していることがわかる。

原因は明確に2つあると考察しました

1つ目は、「PM計画書」の作成から見積もりをPM計画書に記入漏れしていたこと。これは、確認不足が招いたことであるので、このようなミスを2度起こさないように心がるため、メンバ間で確認することをしました。

2つ目は、システムの見積もりを小さく見積もったことです。

前例がないため、ポイントの見積もりをさらに考えスケジュールと照らし合わせることに気を付ける必要があった。

4納期

4.1スプリント

私たちは、このシステム開発において1スプリントを2週間と決め、

ベロシティを初期は20にしていましたが、スケジュールの遅れが生じ始めたので、10に変更しました。

スプリントの終わりをマイルストーンとしました。

納期については、3のEVMで計算したスケジュール効率指数でも明らかなように

1なので、再発表には完成することが出来ました。

最終発表できず、再発表になってしまったので1週間の納期遅れになります。

反省点としては、前半に作成した、PM計画書の見積もりをしていなかったこと、また作成についてPM計画書に記載し忘れていたことです。

それにより、全体の作業に遅れが生じ、前半でのシステム作業が滞り、

予定では2スプリント目で終わるはずのシステムの作業を後半の3・4スプリントに持ち越し、作業を進めた。

ベロシティのポイントを大きく見積もったことによる、スプリントごとの完了作業の遅延が目立った。

前例がないのであるなら、慎重にベロシティを決めるべきであった。

アジャイルのやり方をわかり始めるのが遅かった。